

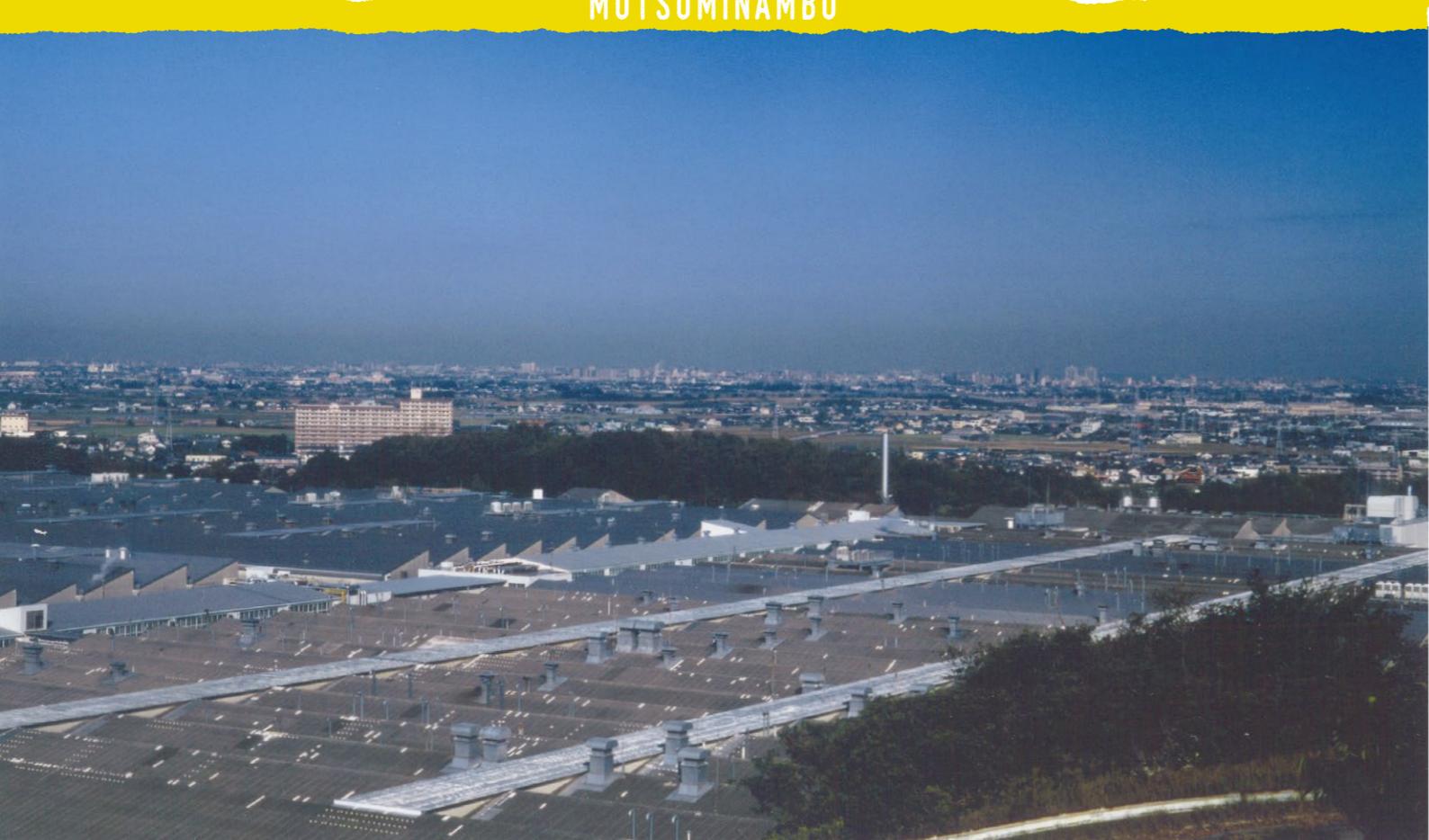


42

悠紀斎田と企業城下町

六ツ美南部学区

MUTSUMINAMBU



《悠紀の里のイメージキャラクター》



《六ツ美南部学区のイメージキャラクター》

むつなん 我が郷土 六ツ南かるたで 愛深め



「六ツ南かるた」
は1セット500円(税込)で販売しています。欲しい方は六ツ美南部小学校までお問い合わせください。
☎ 0564-43-2105

子どもたちからのメッセージ ※平成27年度



豊かな自然に恵まれ、伝統的なお祭りもあるこの町の良さをいつまでも残していきたいです。

六ツ美中学校3年
高木 颯斗さん(中島東町)



地域の方々の笑顔にあふれた温かい町。時代が変わっても、この景色は変わらないでほしいです。

六ツ美中学校3年
牧 花帆さん(中島東町)



編集後記

1970年代の企業進出に伴い、全国各地から移住してきた企業戦士たち。地域の歴史を顧みる機会を得て、三河エリア、とくに碧海・岡崎の変遷や近隣の市町とのかかわりをいろいろと知ることができました。六ツ南の豊かな自然や文化に育まれた「ベッドタウン」、今後の発展には戦いを終えた世代の継続的な「まちづくり」の取り組みが大きな推進力になることでしょう。みんなで「仲よく・楽しく」、気楽にチャレンジしていきたいと考えています。

〔作成委員会〕 茶木正/柴田彰/榎田義則/腰山義之/杉浦勝英/杉浦久直

〔参考資料〕 六ツ美村誌/六ツ美風土記/六ツ美南部の歴史・文化を紐解く／わたしたちのふるさと 六ツ南114選/悠紀斎田中島案内/碧海大地の農業の礎 大嘗祭悠紀斎田/大嘗祭六ツ美悠紀斎田100周年記念事業記念誌

〔写真・資料協力〕 斎藤晃/鶴田泰正/つるや呉服店/近江屋酒店/早川佐代子/高橋富寿/平野敦子/手島奈代子/鈴木喜信

〔表紙写真〕 デンソー西尾製作所から眺めた六ツ美南部学区と六ツ美悠紀斎田100周年記念お田植えまつり
(2016年6月・2015年6月撮影)

岡崎市制100周年記念事業

岡崎まちものがたり 42 六ツ美南部学区まちものがたり

発行 2017年1月

六ツ美南部学区 まちあるきマップ

六ツ美南部学区は花いっぱいの町。神社や公園には桜やツツジ、高橋用水路や悠紀の里周辺には桜の苗が植樹されています。また、かつて多くの商店が軒を連ねていた中島町には、創業100年以上の老舗が健在です。花や名木を愛でに、買い物を楽しみに遊びにきてください。



六ツ美南部の 名木と花



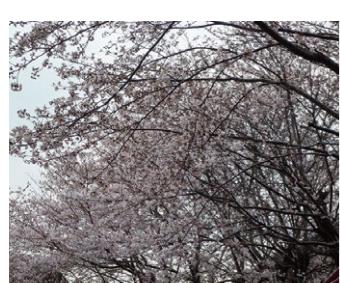
A 正名のくろがねもち



B 八幡社の招靈木（おがたまのき）



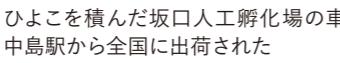
【C】斎田公園のツツジ



▶ 中島眞意遊園の様



矢作古川の鉄橋を走る西尾軽便鉄道



ひよこを積んだ坂口人工孵化場の中島駅から全国に出荷された

明治44年（1911）に西尾～岡崎新駅間13・3kmの営業運転が始まりました。駅は八つあり、六ツ美南部学区には中島駅と占部停車場が設置されました。1日2往復の運行が、大正4年頃には12往復になり、石炭、木材、玄米、肥料、生繭などの貨物輸送が盛んになりました。悠紀斎田お田植えまつりや岡崎公園の花見の時期には臨時列車が走りました。

鉄道も走った！



六ツ美南部のまつり

万人以上の人々が参加し、大変な賑わいだったそうです。

この名誉を記念して、六ツ

曜日に「六ツ美悠紀斎田お田植えまつり」を行っています。

平成27年の六ツ美悠紀斎田100周年記念式典には秋

篠宮同妃両殿下が御臨席になりました。

（た） 大正の天皇即位 お田植え祭り



平成27年6月7日に行われた六ツ美悠紀斎田100周年記念お田植えまつり

天皇が即位した年に行う祭を大嘗祭といいます。その年に収穫した米を神々に供え、天皇陛下もお召し上がりになります。この献上米を作る水田を斎田といいます。

大正3年(1914)3月、

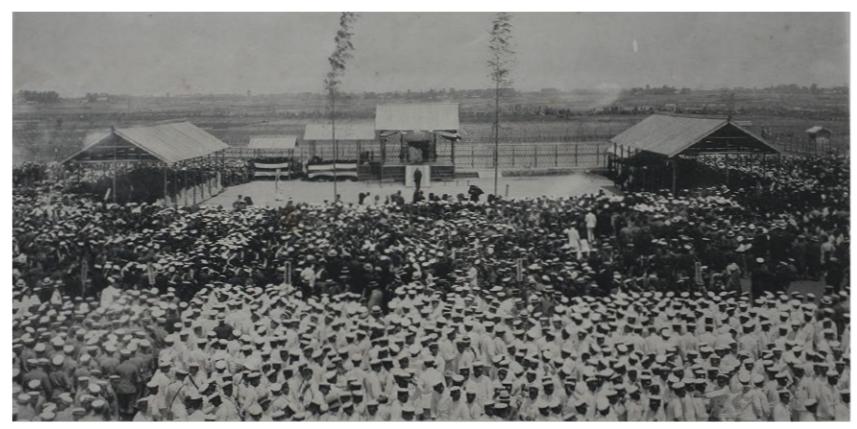
数多くの候補地から碧海郡六ツ美村(現岡崎市中島町)が斎田に選ばれ、村中が喜びに沸きました。同年4月に昭憲皇太后が崩御したため、翌年の大正4年に執行。悠紀斎田に向けて奉公者を107名選び、祓式には約4600名が参加しました。6月に開催されたお田植えまつりには7



（も） 持ち稻の萬歳育て 奉納する



献上米の稻は、「萬歳」という品種の苗が選ばされました。碧海郡の早生種で、「郡益」という名が付いていましたが、一大行事を永々記念するため改称。その後、萬歳の栽培は途絶えていましたが、平成27年に悠紀斎田の古跡地に開館した「悠紀の里」の一角で栽培されています。



大正4年6月5日に開催されたお田植えまつり



お田植え踊り



大正4年のお田植えまつりで配布された『中島案内』。大嘗祭悠紀斎田の概要、中島の名所旧跡、飲食店、「萬歳」を使用したお土産などが紹介されている。編者は耕地整理に尽力した早川治三郎(じさぶろう)

大嘗祭悠紀斎田の米づくり

大嘗祭に納める献上米を作るために、稻の種まきから田植え、刈取り、稻扱き、粉、搗りなどの一連の作業が六ツ美村で行われました。奉公の人々の衣装や農耕具も特別に作られました。大正4年10月16日、安城駅から特別列車で京都に運ばれ、11月14日に大嘗祭が執り行われました。



岡崎市地域交流センター 六ツ美分館 「悠紀の里」



六ツ美地域の歴史や文化財を紹介する資料室と地域交流スペースが併設。資料室には悠紀斎田に使用された農機具や記念品、当時の写真が展示されています。



(上) 八幡社の山車
(下) 日長社の七福神

ね 練り歩く 日長八幡 ちりからばやし

「ちりからばやし」のちりからとは長唄の囃子用語で、ちりは大鼓からは小鼓を表します。

矢作川流域、特に六ツ美地区には祭礼時に太鼓・笛などの楽器を奏で、屋台車とともに村内を練り歩く囃子がたくさんあります。チヤラボコもその一つです。六ツ美南部学区では日長社と八幡社の秋の例大祭で明治30年頃からちりからばやしが行わってきました。日長社では七福神に扮した若者らが手踊りを披露し、祭りを盛り上げました。現在、八幡社でははやし保存会が中心となり、子どもたちにちりから囃子を伝えています。



素盞鳴神社(定国町)から占部天神社(中村町)への渡御

ほ 豊作を祈る神々 御田扇祭り



「御田扇祭り」は五穀豊穣を願った江戸時代から続く祭りです。地元では「扇さん」と呼ばっています。かつては手永と呼ばれた六つの地域で行われていましたが、現在は山方手永(13町)と堤通手永(20町)の二つ。手永を構成する町が一年ごとに持ち回りで行い、翌年当番する隣町の神社まで、神輿や大団扇を担いで渡御します。

（毎年7月20日前後の日曜）

（毎年10月10日前後の日曜）



ね 練り歩く 日長八幡 ちりからばやし

「ちりからばやし」のちりからとは長唄の囃子用語で、ちりは大鼓からは小鼓を表します。

矢作川流域、特に六ツ美地区には祭礼時に太鼓・笛などの楽器を奏で、屋台車とともに村内を練り歩く囃子がたくさんあります。チヤラボコもその一つです。六ツ美南部学区では日長社と八幡社の秋の例大祭で明治30年頃からちりからばやしが行わってきました。日長社では七福神に扮した若者らが手踊りを披露し、祭りを盛り上げました。現在、八幡社でははやし保存会が中心となり、子どもたちにちりから囃子を伝えています。



ね 練り歩く 日長八幡 ちりからばやし

「ちりからばやし」のちりからとは長唄の囃子用語で、ちりは大鼓からは小鼓を表します。

矢作川流域、特に六ツ美地区には祭礼時に太鼓・笛などの楽器を奏で、屋台車とともに村内を練り歩く囃子がたくさんあります。チヤラボコもその一つです。六ツ美南部学区では日長社と八幡社の秋の例大祭で明治30年頃からちりからばやしが行わってきました。日長社では七福神に扮した若者らが手踊りを披露し、祭りを盛り上げました。現在、八幡社でははやし保存会が中心となり、子どもたちにちりから囃子を伝えています。



ね 練り歩く 日長八幡 ちりからばやし

「ちりからばやし」のちりからとは長唄の囃子用語で、ちりは大鼓からは小鼓を表します。

矢作川流域、特に六ツ美地区には祭礼時に太鼓・笛などの楽器を奏で、屋台車とともに村内を練り歩く囃子がたくさんあります。チヤラボコもその一つです。六ツ美南部学区では日長社と八幡社の秋の例大祭で明治30年頃からちりからばやしが行わってきました。日長社では七福神に扮した若者らが手踊りを披露し、祭りを盛り上げました。現在、八幡社でははやし保存会が中心となり、子どもたちにちりから囃子を伝えています。



ね 練り歩く 日長八幡 ちりからばやし

「ちりからばやし」のちりからとは長唄の囃子用語で、ちりは大鼓からは小鼓を表します。

矢作川流域、特に六ツ美地区には祭礼時に太鼓・笛などの楽器を奏で、屋台車とともに村内を練り歩く囃子がたくさんあります。チヤラボコもその一つです。六ツ美南部学区では日長社と八幡社の秋の例大祭で明治30年頃からちりからばやしが行わってきました。日長社では七福神に扮した若者らが手踊りを披露し、祭りを盛り上げました。現在、八幡社でははやし保存会が中心となり、子どもたちにちりから囃子を伝えています。



ね 練り歩く 日長八幡 ちりからばやし

「ちりからばやし」のちりからとは長唄の囃子用語で、ちりは大鼓からは小鼓を表します。

矢作川流域、特に六ツ美地区には祭礼時に太鼓・笛などの楽器を奏で、屋台車とともに村内を練り歩く囃子がたくさんあります。チヤラボコもその一つです。六ツ美南部学区では日長社と八幡社の秋の例大祭で明治30年頃からちりからばやしが行わってきました。日長社では七福神に扮した若者らが手踊りを披露し、祭りを盛り上げました。現在、八幡社でははやし保存会が中心となり、子どもたちにちりから囃子を伝えています。



ね 練り歩く 日長八幡 ちりからばやし

「ちりからばやし」のちりからとは長唄の囃子用語で、ちりは大鼓からは小鼓を表します。

矢作川流域、特に六ツ美地区には祭礼時に太鼓・笛などの楽器を奏で、屋台車とともに村内を練り歩く囃子がたくさんあります。チヤラボコもその一つです。六ツ美南部学区では日長社と八幡社の秋の例大祭で明治30年頃からちりからばやしが行わってきました。日長社では七福神に扮した若者らが手踊りを披露し、祭りを盛り上げました。現在、八幡社でははやし保存会が中心となり、子どもたちにちりから囃子を伝えています。



ね 練り歩く 日長八幡 ちりからばやし

「ちりからばやし」のちりからとは長唄の囃子用語で、ちりは大鼓からは小鼓を表します。

矢作川流域、特に六ツ美地区には祭礼時に太鼓・笛などの楽器を奏で、屋台車とともに村内を練り歩く囃子がたくさんあります。チヤラボコもその一つです。六ツ美南部学区では日長社と八幡社の秋の例大祭で明治30年頃からちりからばやしが行わってきました。日長社では七福神に扮した若者らが手踊りを披露し、祭りを盛り上げました。現在、八幡社でははやし保存会が中心となり、子どもたちにちりから囃子を伝えています。



ね 練り歩く 日長八幡 ちりからばやし

「ちりからばやし」のちりからとは長唄の囃子用語で、ちりは大鼓からは小鼓を表します。

矢作川流域、特に六ツ美地区には祭礼時に太鼓・笛などの楽器を奏で、屋台車とともに村内を練り歩く囃子がたくさんあります。チヤラボコもその一つです。六ツ美南部学区では日長社と八幡社の秋の例大祭で明治30年頃からちりからばやしが行わってきました。日長社では七福神に扮した若者らが手踊りを披露し、祭りを盛り上げました。現在、八幡社でははやし保存会が中心となり、子どもたちにちりから囃子を伝えています。



ね 練り歩く 日長八幡 ちりからばやし

「ちりからばやし」のちりからとは長唄の囃子用語で、ちりは大鼓からは小鼓を表します。

矢作川流域、特に六ツ美地区には祭礼時に太鼓・笛などの楽器を奏で、屋台車とともに村内を練り歩く囃子がたくさんあります。チヤラボコもその一つです。六ツ美南部学区では日長社と八幡社の秋の例大祭で明治30年頃からちりからばやしが行わってきました。日長社では七福神に扮した若者らが手踊りを披露し、祭りを盛り上げました。現在、八幡社でははやし保存会が中心となり、子どもたちにちりから囃子を伝えています。



ね 練り歩く 日長八幡 ちりからばやし

「ちりからばやし」のちりからとは長唄の囃子用語で、ちりは大鼓からは小鼓を表します。

矢作川流域、特に六ツ美地区には祭礼時に太鼓・笛などの楽器を奏で、屋台車とともに村内を練り歩く囃子がたくさんあります。チヤラボコもその一つです。六ツ美南部学区では日長社と八幡社の秋の例大祭で明治30年頃からちりからばやしが行わってきました。日長社では七福神に扮した若者らが手踊りを披露し、祭りを盛り上げました。現在、八幡社でははやし保存会が中心となり、子どもたちにちりから囃子を伝えています。



ね 練り歩く 日長八幡 ちりからばやし

「ちりからばやし」のちりからとは長唄の囃子用語で、ちりは大鼓からは小鼓を表します。

矢作川流域、特に六ツ美地区には祭礼時に太鼓・笛などの楽器を奏で、屋台車とともに村内を練り歩く囃子がたくさんあります。チヤラボコもその一つです。六ツ美南部学区では日長社と八幡社の秋の例大祭で明治30年頃からちりからばやしが行わってきました。日長社では七福神に扮した若者らが手踊りを披露し、祭りを盛り上げました。現在、八幡社でははやし保存会が中心となり、子どもたちにちりから囃子を伝えています。



ね 練り歩く 日長八幡 ちりからばやし

「ちりからばやし」のちりからとは長唄の囃子用語で、ちりは大鼓からは小鼓を表します。

矢作川流域、特に六ツ美地区には祭礼時に太鼓・笛などの楽器を奏で、屋台車とともに村内を練り歩く囃子がたくさんあります。チヤラボコもその一つです。六ツ美南部学区では日長社と八幡社の秋の例大祭で明治30年頃からちりからばやしが行わってきました。日長社では七福神に扮した若者らが手踊りを披露し、祭りを盛り上げました。現在、八幡社でははやし保存会が中心となり、子どもたちにちりから囃子を伝えています。



ね 練り歩く 日長八幡 ちりからばやし

「ちりからばやし」のちりからとは長唄の囃子用語で、ちりは大鼓からは小鼓を表します。

矢作川流域、特に六ツ美地区には祭礼時に太鼓・笛などの楽器を奏で、屋台車とともに村内を練り歩く囃子がたくさんあります。チヤラボコもその一つです。六ツ美南部学区では日長社と八幡社の秋の例大祭で明治30年頃からちりからばやしが行わってきました。日長社では七福神に扮した若者らが手踊りを披露し、祭りを盛り上げました。現在、八幡社でははやし保存会が中心となり、子どもたちにちりから囃子を伝えています。

